

愛知県経済の現状と見通し<2014年5月>

1. 総括判断

景気の現状	一部に弱い動きがみられるものの総じて堅調に推移	基調判断の 前月との 比較(注1)	↓ → ↑	水準 評価 (注2)	☀️ ☁️ ☀️ ☁️
当面の見通し	一時的に弱い動きとなるも夏場以降に持ち直す見通し				

2. 個別項目の動向

個人消費	基調判断	一部に弱い動き		
	基調判断の前月との比較	↓	水準評価	☀️ ☁️
<p>＜現状＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『管内大型小売店販売』より、個人消費の動向を販売者側からみると(図表1)、3月の名古屋市百貨店販売額は前年比+37.1%と8か月連続の増加。 ○品目別にみると、主力の衣料品(前年比+29.5%)が引き続き好調となったことに加え、貴金属、宝石、腕時計などの高級品を含むその他(同+83.3%)が大幅な増加。 ○一方、4月の新車乗用車販売(含む軽)をみると(図表2)、22,175台・前年比▲5.3%と8か月ぶりの前年比マイナス。 ○車種別にみると、軽乗用車(前年比+32.1%)は引き続きプラスとなったものの、普通車(前年比▲17.6%)、小型車(同▲3.5%)は消費増税による駆け込み需要の反動などからマイナス。 <p>＜見通し＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○4月の主要スーパーの売上高(速報)をみると、消費増税による駆け込み需要の反動減の動きが出ており、夏場までは反動減と物価上昇による実質的な購買力の低下から下ぶれの動きとなる見通し。もっとも、雇用・所得環境が改善するなかで、消費マインドの落ち込みは限定的なものになるとみられ、夏場以降の個人消費は徐々に回復に向かう見通し。 ○乗用車についても、消費増税前の駆け込み需要の反動がみられることから、当面の販売は鈍化する見通し。 				
<p>図表1 名古屋市・百貨店販売額<前年比></p> <p>(資料) 中部経済産業局「管内大型小売店販売」 (年/月)</p> <p>◆3月 名古屋市・百貨店販売額 501億円 前年比+37.1%(8か月連続の増加) ・うち衣料品 前年比+29.5%(5か月連続の増加)</p>				
<p>図表2 新車乗用車販売台数<前年比></p> <p>(資料) 日本自動車販売協会連合会「自動車登録統計情報」 (年/月)</p> <p>◆4月 新車乗用車販売台数<含む軽> 22,175台 前年比▲5.3%(8か月ぶりの減少)</p>				

(注1)「基調判断の前月との比較」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、↗️: 上方修正、↔️: 据え置き、↘️: 下方修正を示す。例えば、「回復」→「減速」となれば下方修正、「回復」→「回復」なら据え置き、となる。したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

(注2)「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、☀️: 晴、☀️☁️: 晴～曇、☁️: 曇、☁️☔️: 曇～雨、☔️: 雨、を示す。

お問い合わせ先	三重銀総研 調査部 別府
	電話: 059-354-7102

雇 用 情 勢	基調判断	回復している		
	基調判断の前月との比較	→	水準評価	☀️
	<p>《現状》 ○3月の求人倍率をみると(図表3)、有効求人倍率(季節調整値)が1.55倍と2か月連続の上昇となる一方で、新規求人倍率(同)は2.38倍と2か月ぶりの低下。 ○愛知県は有効求人倍率で全国1位、新規求人倍率で全国2位となるなど引き続き全国レベルでも高水準で推移。</p> <p>《見通し》 ○消費増税による販売、生産の落ち込みが予想されるものの、景気回復の動きが続くなかで幅広い業種で求人が増加する見通し。</p>			

図表3 有効・新規求人倍率<季節調整値>

(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」

◆3月 求人倍率<季節調整値>

- 有効求人倍率: 1.55倍
前月差+0.02ポイント(2か月連続の上昇)
- 新規求人倍率: 2.38倍
前月差▲0.03ポイント(2か月ぶりの低下)

企 業 活 動	基調判断	堅調		
	基調判断の前月との比較	→	水準評価	☀️ ☁️
	<p>《現状》 ○2月の鉱工業生産指数をみると(図表4)、前年比+6.1%と6か月連続のプラス。はん用・生産用・業務用機械(同+23.4%)の生産増加が主因。</p> <p>《見通し》 ○愛知県の鉱工業生産に大きな影響を与えるトヨタ自動車の国内生産動向をみると、3月は2か月ぶりに前年比プラス。もっとも、今後、消費増税に伴う販売面のマイナスが生産動向に影響を与える見通し。</p>			

図表4 鉱工業生産<前年比>

(資料)愛知県県民生活部統計課「愛知県鉱工業指数」

◆2月 鉱工業生産

- 前年比+6.1% (6か月連続の上昇)
- うち輸送機械 前年比+2.2% (6か月連続の上昇)

輸 出	基調判断	横ばい		
	基調判断の前月との比較	→	水準評価	☀️ ☁️
	<p>《現状》 ○3月の名古屋港通関輸出額をみると(図表5)、前年比+0.1%とほぼ横ばい。 ○仕向地別にみると、これまで二桁の伸びとなっていたアジア向け(前年比+4.7%)で一桁の伸びとなったことに加え、西歐向け(同+3.8%)、米国向け(同+7.2%)でも一桁の伸び。</p> <p>《見通し》 ○一般機械は中部5県主要メーカーの海外受注高(3月:前年比+20.3%)が2か月ぶりのプラス。地域別にみると、欧州向けが好調を維持するなか、北米向け、アジア向けも2か月ぶりにプラス。海外経済の好調により引き続き海外需要は底堅く推移する見通し。</p>			

図表5 名古屋港通関輸出額<前年比>

(資料)名古屋税関「管内貿易概況」

◆3月 名古屋港通関輸出額

9,465億円 前年比+0.1% (15か月連続の増加)